



2019年10月 日本海スケトウダラ資源調査結果

道総研

令和元年11月1日

北海道立総合研究機構 水産研究本部 稚内水産試験場 0162-32-7166
中央水産試験場 0135-23-8707 函館水産試験場 0138-83-2892

- ◎魚探反応量（暫定値）は，宗谷・留萌海域で前年比 0.86，石狩・後志海域で前年比 1.66，檜山・渡島海域で前年比 0.70
- ◎武蔵堆西，積丹沖，岩内沖，檜山・渡島海域では尾叉長 30 cm 台半ばの 4 歳魚（2015 年級）と尾叉長 40 cm 台前半の 7 歳魚（2012 年級）主体
- ◎留萌沖，小樽堆では 10 cm 台後半の 1 歳魚（2018 年級）や 20 cm 台後半の 2 歳魚（2017 年級）も漁獲

1. 調査概要

2019年10月10日～21日に道西日本海の図1に示した海域において，稚内水試・北洋丸と函館水試・金星丸により，計量魚群探知機と着底トロール網を用いたスケトウダラ資源調査を実施しました。

2. 魚探反応量

魚探反応量の大きかったラインの魚探画像を図2に，魚探反応量 NASC の分布を図3に示します。今年度の調査では，宗谷・留萌海域では武蔵堆北部（ラインB西），石狩・後志海域では積丹岬北（ラインH）と島牧沖（ラインM, N）で大きな反応が見られました。檜山・渡島海域では奥尻海峡（ラインQ東）で大きな反応が見られました。

海域別の反応量は，宗谷・留萌海域で前年比 0.86，石狩・後志海域で前年比 1.66，檜山・渡島海域で前年比 0.70 であり，全体では前年比 0.96 でした（魚探反応量は暫定値）。

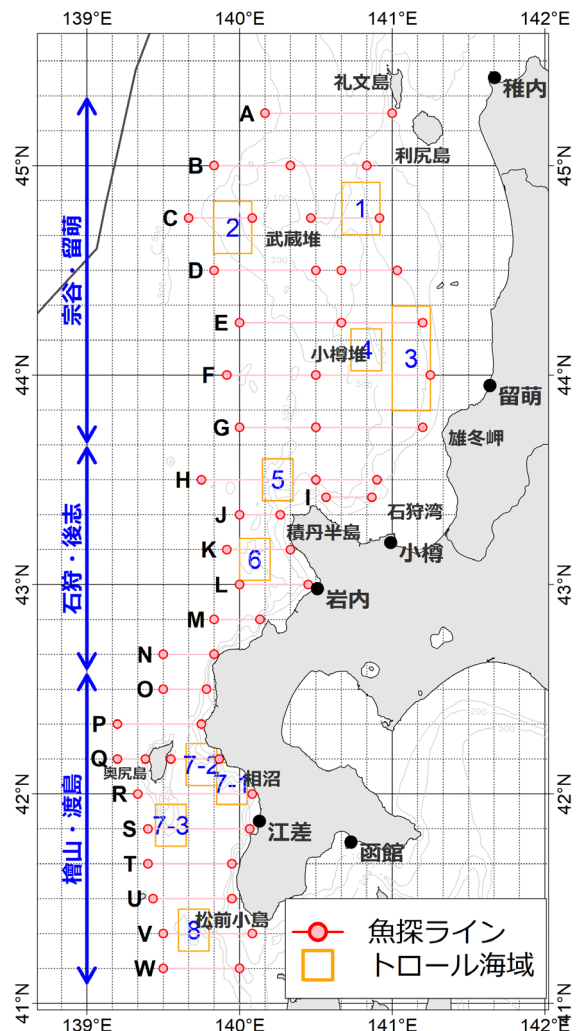


図1. 調査海域図

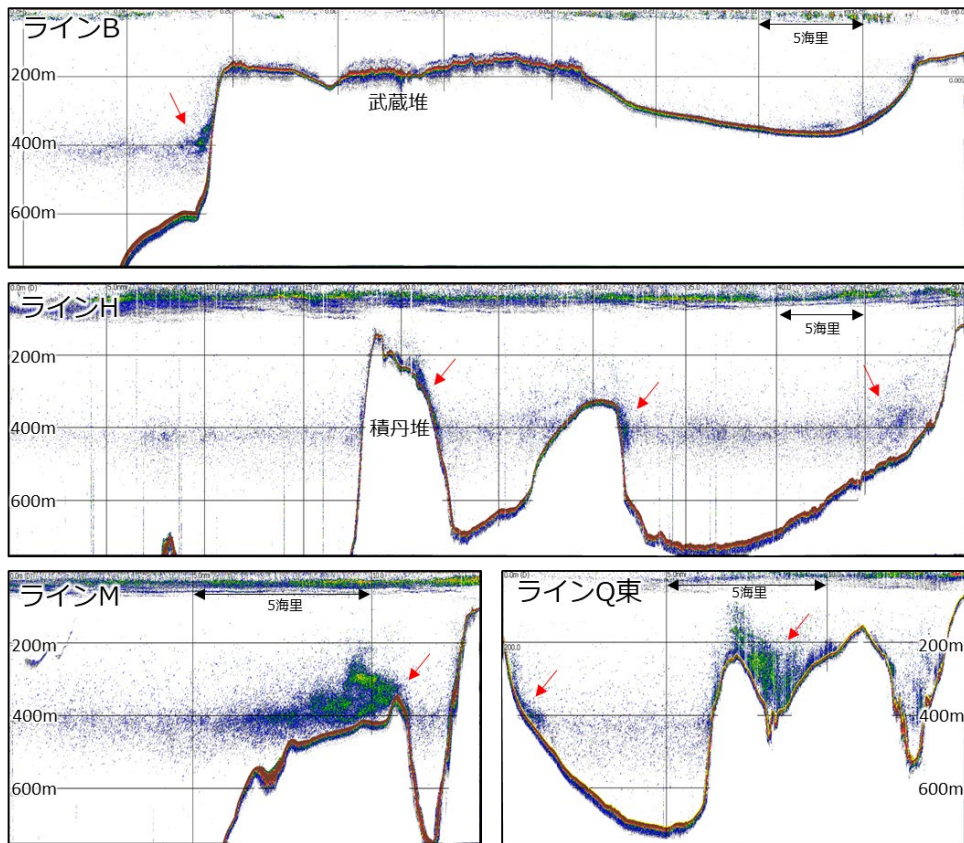


図 2. 魚探反応量の大きかったラインにおける魚探画像（エコーグラム）.
赤矢印はスケトウダラ魚群と見られる反応. 各画像の右側が沿岸側.

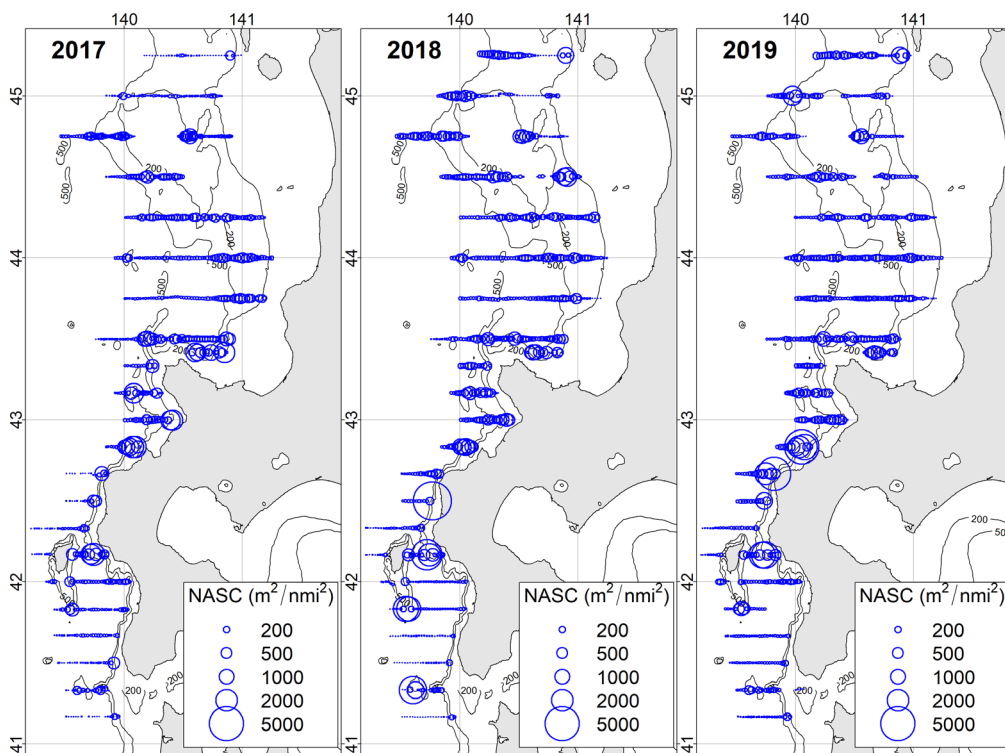


図 3. 魚探反応量 NASC の分布.

NASC : 1 平方マイルあたりの魚探反応量で魚群分布量の指標になる.

3. サイズ組成

トロール網で採集されたスケトウダラの尾叉長組成を図4に示します。

武蔵堆西部，ならびに積丹～渡島海域（トロール海域2，5～8）では尾叉長30 cm 台半ばの4歳魚（2015年級）と40 cm 台前半の7歳魚（2012年級）と思われる成魚が主体でした。留萌沖（トロール海域3）では尾叉長10cm 台後半の1歳魚（2018年級）と思われる未成魚が多く見られ，小樽堆（トロール海域4）では20cm 台後半の2歳魚（2017年級）と見られる個体も見られました。

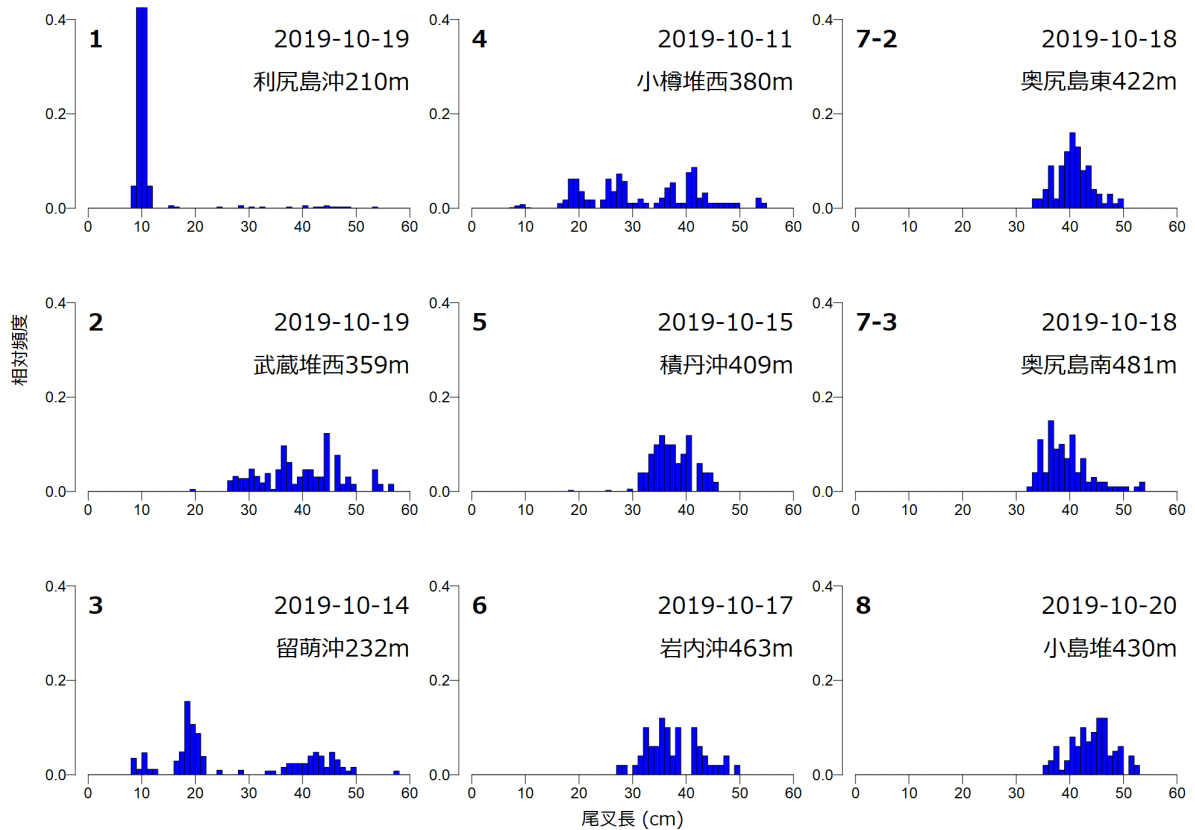


図4. スケトウダラの尾叉長組成（2019年10月道西日本海）.

各グラフ左上数字は図1のトロール海域番号と対応.